

Canon 社 光干渉断層計 OCT-S1 についてのご案内

小沢眼科内科病院 病棟医長 広江 孝

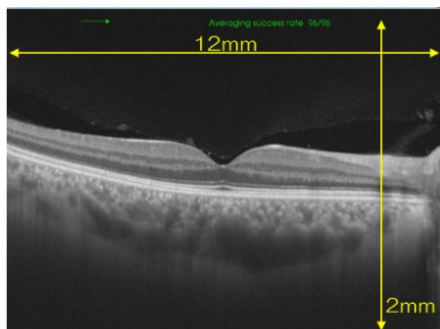


Canon 社の光干渉断層計 OCT-S1 という最新の OCT を導入しました。(現在のところ県内で初のようなです)

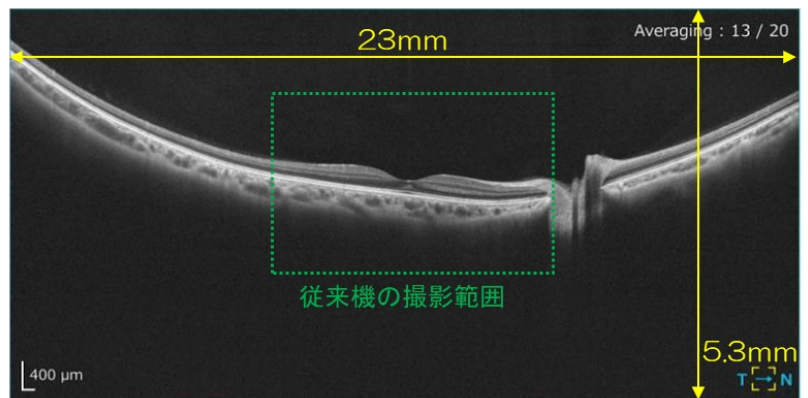


光干渉断層計は、眼の奥にある網膜の構造を画像化する眼科機器ですが、従来の機器に比べ広範囲かつ深部に至るまでの眼底三次元画像を取得することが可能です。

具体的には従来機ではスキャン幅約 12mm、深さ約 2.0mm 程度であったものが、スキャン幅約 23mm、深さ約 5.3mm の超広角撮影が可能になり、硝子体から網膜・脈絡膜・強膜境界部までの広範囲を一度の撮影で高精細に画像化することができます。

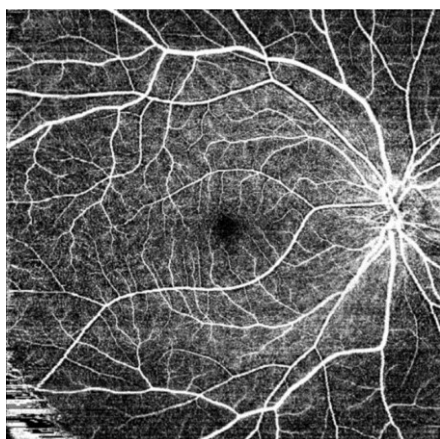


従来機

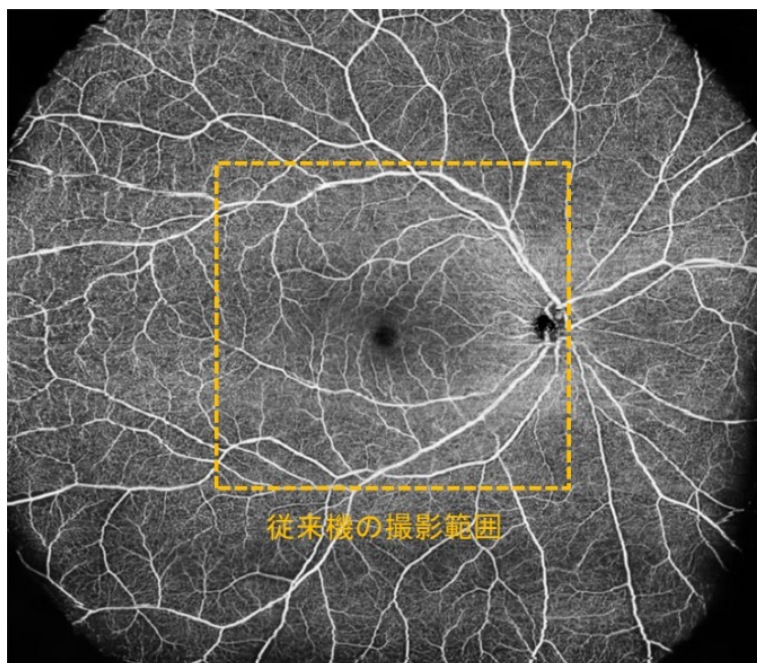


OCT-S1

また、網膜の血流を評価する OCT アンギオグラフィー(OCTA)画像も従来機に比べ、広角に撮影することができ、造影剤を使用しなくても、広範囲の網膜血流を評価することができるようになってきました。



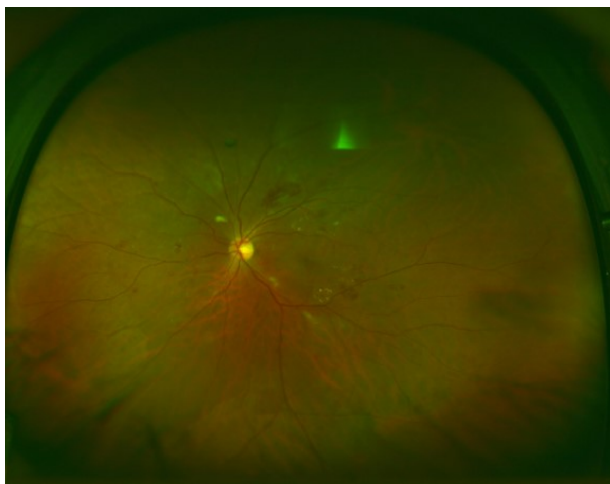
従来機



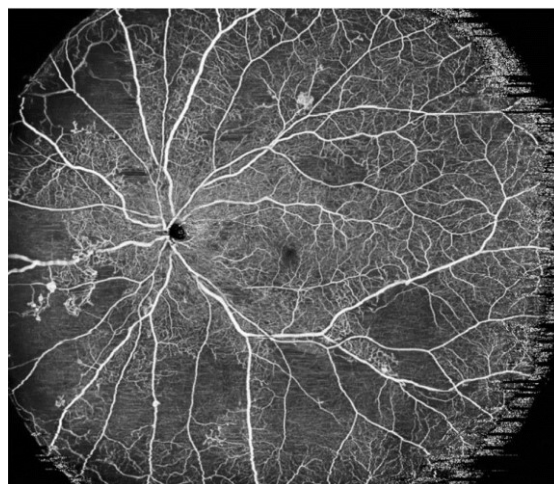
OCT-S1

この広角の OCTA を用いることにより、糖尿病網膜症や静脈閉塞症の病態評価を低侵襲かつ短時間で(20-30 秒程度)で行うことができます。従来の検査法では造影剤が必須でしたが、OCTA では造影剤を用いないため、繰り返し検査を行うことができ、より早期に病状を把握できます。(低侵襲な検査ですので、受診毎に撮影することも可能です)

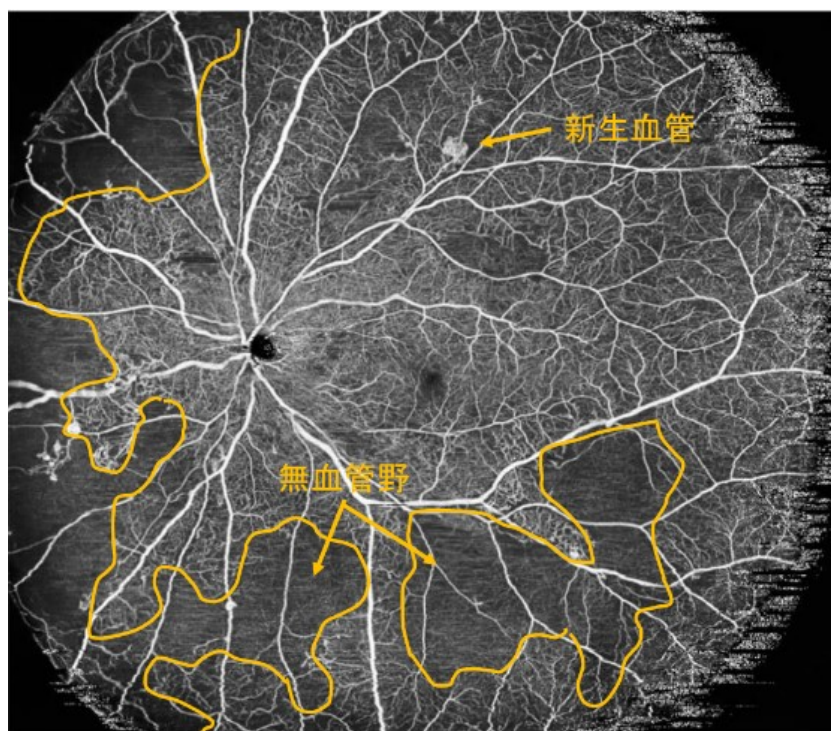
◆ 増殖性糖尿病網膜症



広角眼底写真



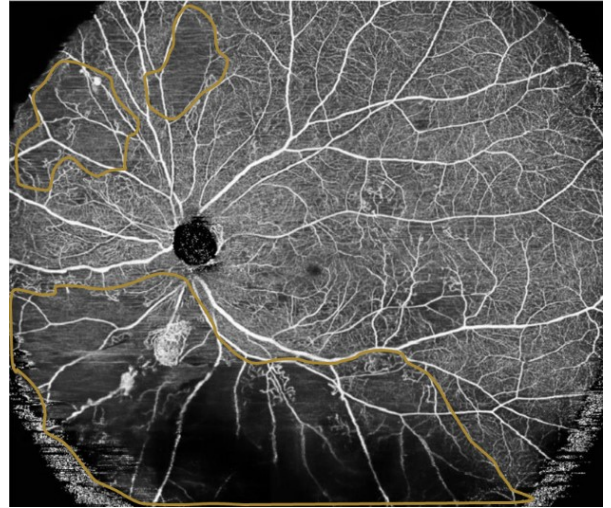
OCTA



広範な無血管野、および新生血管も多発しているため、汎網膜光凝固(PRP)が必要な症例です。

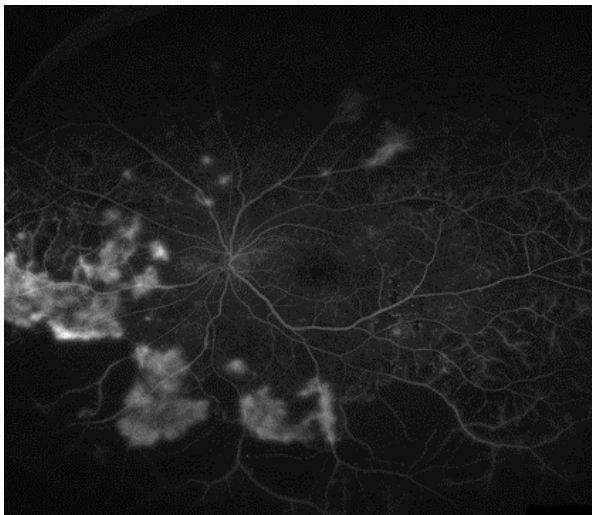


フルオレセイン蛍光眼底造影(FA)

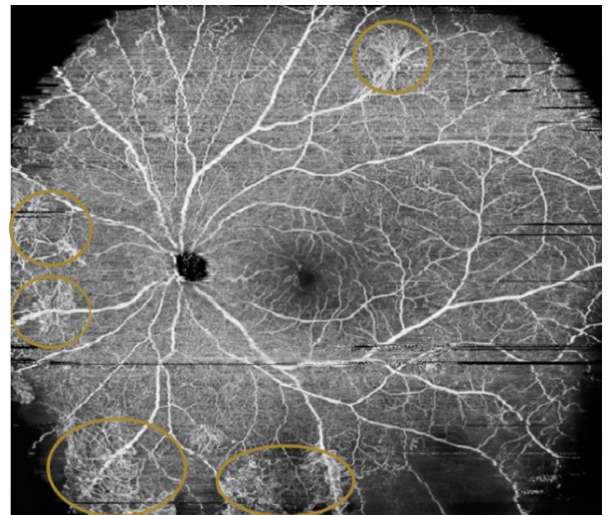


OCTA

FAと比較しても、OCTAでは同様に無血管野が検出できます。



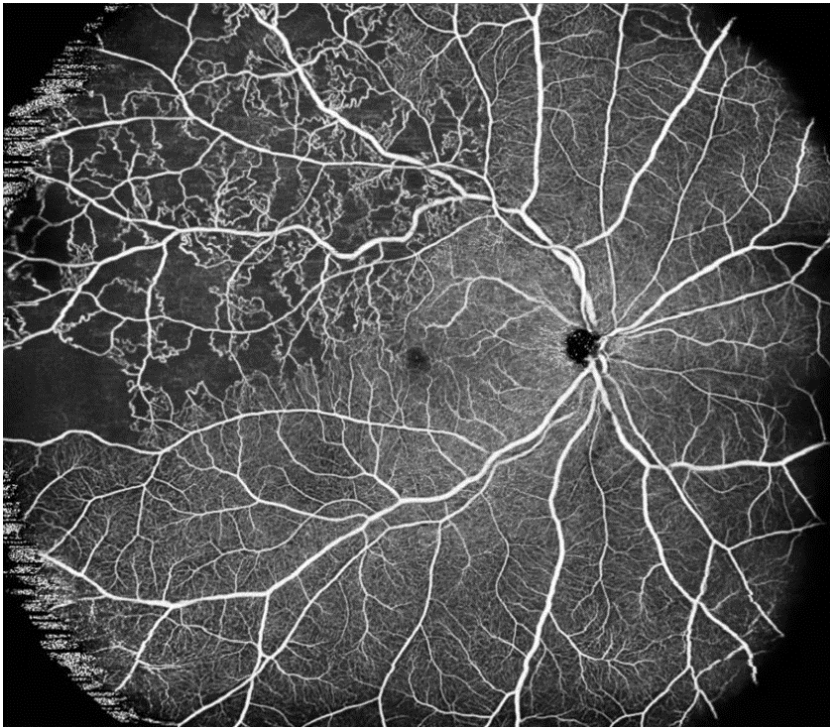
FA



OCTA

蛍光漏出がないため、新生血管はOCTAのほうがはっきりと検出できます。

◆ 網膜静脈分枝閉塞症



網膜静脈分枝閉塞症でも広範囲な無血管野が検出され、網膜光凝固の検討ができます。

糖尿病網膜症では眼底写真で一見落ち着いているようにみえる症例でも、症状がないまま進行し、硝子体出血をおこす症例も経験します。そのような症例も広角 OCTA で無血管野や新生血管を早期に発見できれば、治療を行うことで視力低下を回避できることも期待できます。患者さんにとっても低侵襲で5分程度と短時間の検査ですので、適応の症例がございましたら当院へご紹介いただければ幸いです。

当院では予約外の患者様も受診頂けますが、ご紹介頂いた患者様がより円滑に受診頂けるように事前予約を受け付けております。

お手数ではございますが、ご協力下さいますよう宜しくお願い申し上げます。

※ 紹介元の医療機関様のご負担にならない様、患者様から直接のお電話でもご予約頂けます。

地域医療連携室	
電話番号	029-248-8705
FAX 番号	029-248-8706
対応時間	9:00~17:00 月曜日~土曜日(祝日除く)